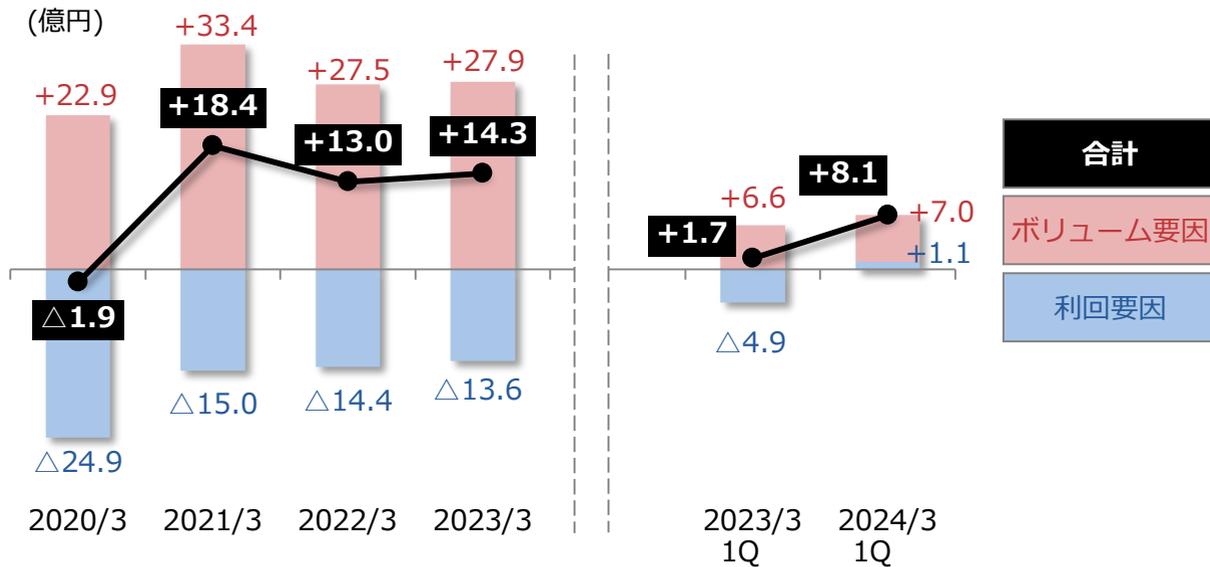


補足資料



固定金利貸出の約定金利改善や高スプレッド案件投入により事業性貸出の利回りは反転

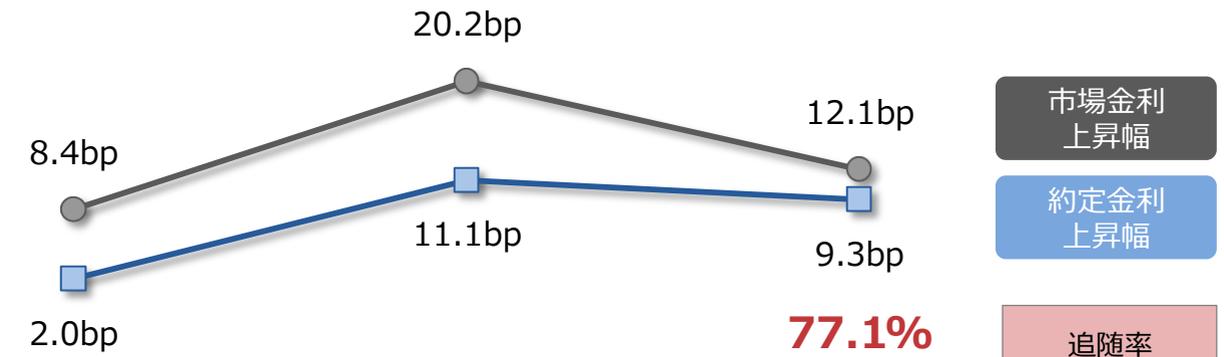
事業性貸出利息の増減要因（前年同期比）



事業性資金の利回り改善

要因①

固定貸出における金利再固定において、市場レートの上昇幅に対する、約定レートの上昇幅（**追随率**）が大きく改善



一般貸出（円貨） 1日当たり資金利益

※各半期の期末月(3・9月) [2024/3 1Qは四半期末月(6月)]の1日当たり資金利益

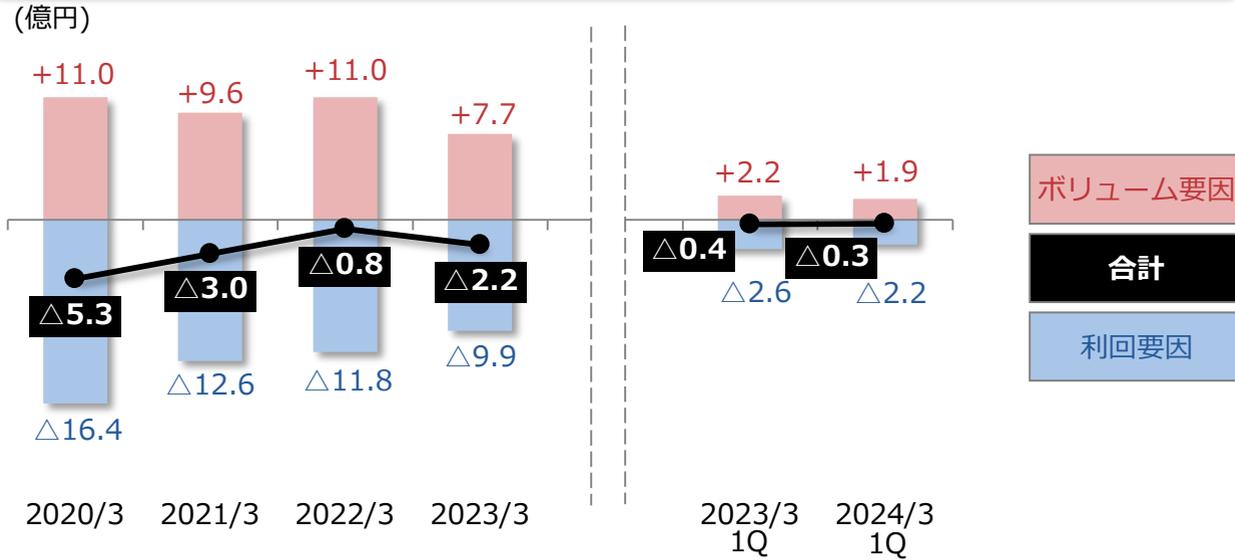


要因②

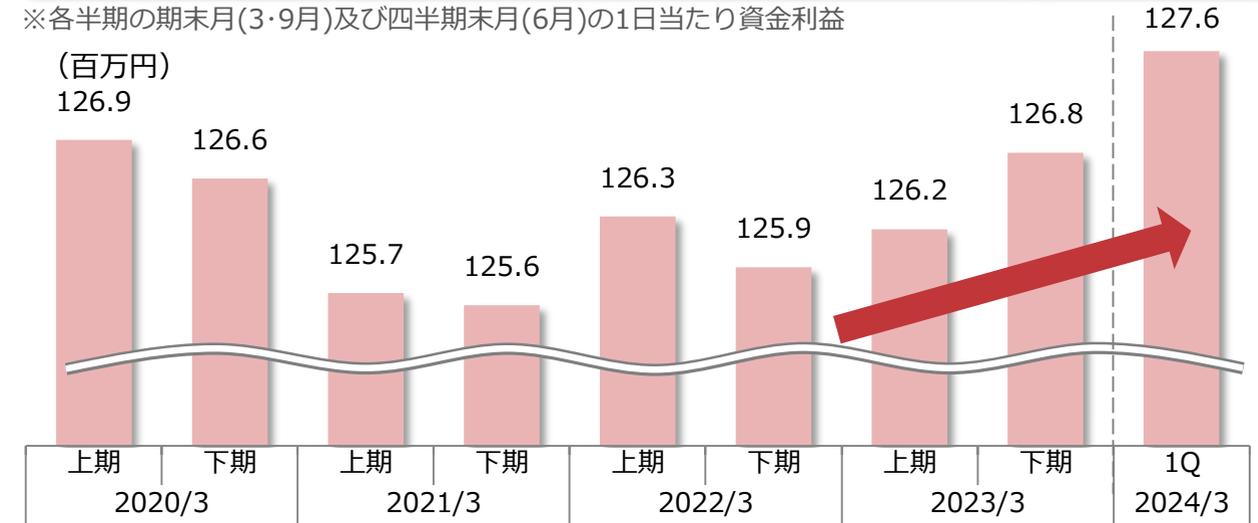
スプレッドの厚い大型プロジェクト案件やストラクチャード・ファイナンス案件の取組みが寄与

無担保ローンの残高増加がローン全体の資金利益を底上げ

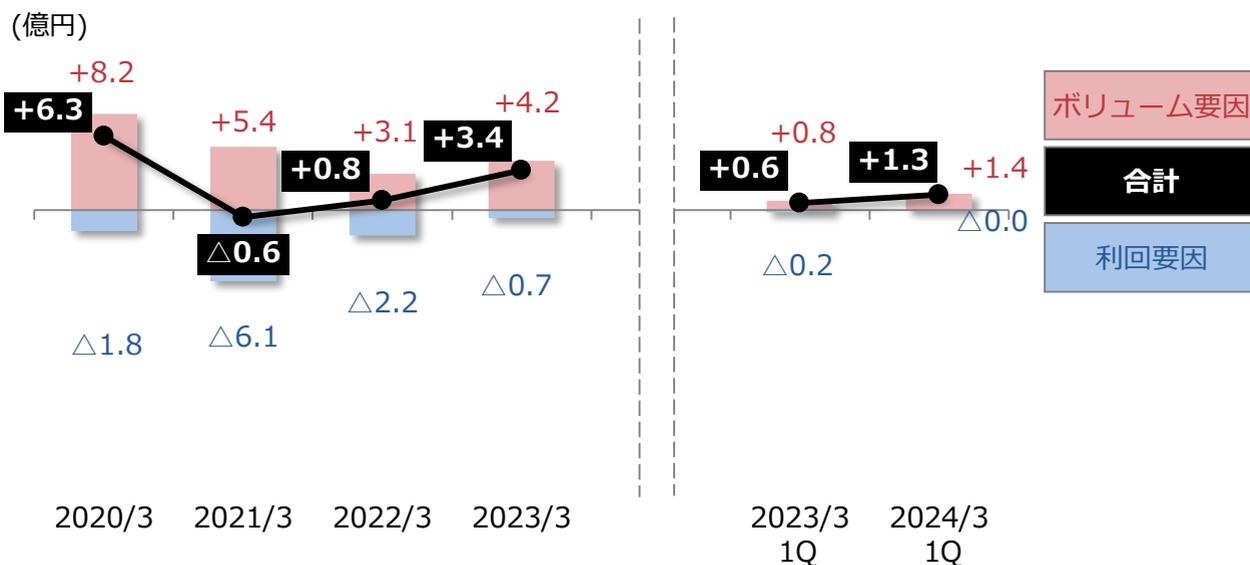
住宅ローン利息の増減要因（前年同期比）



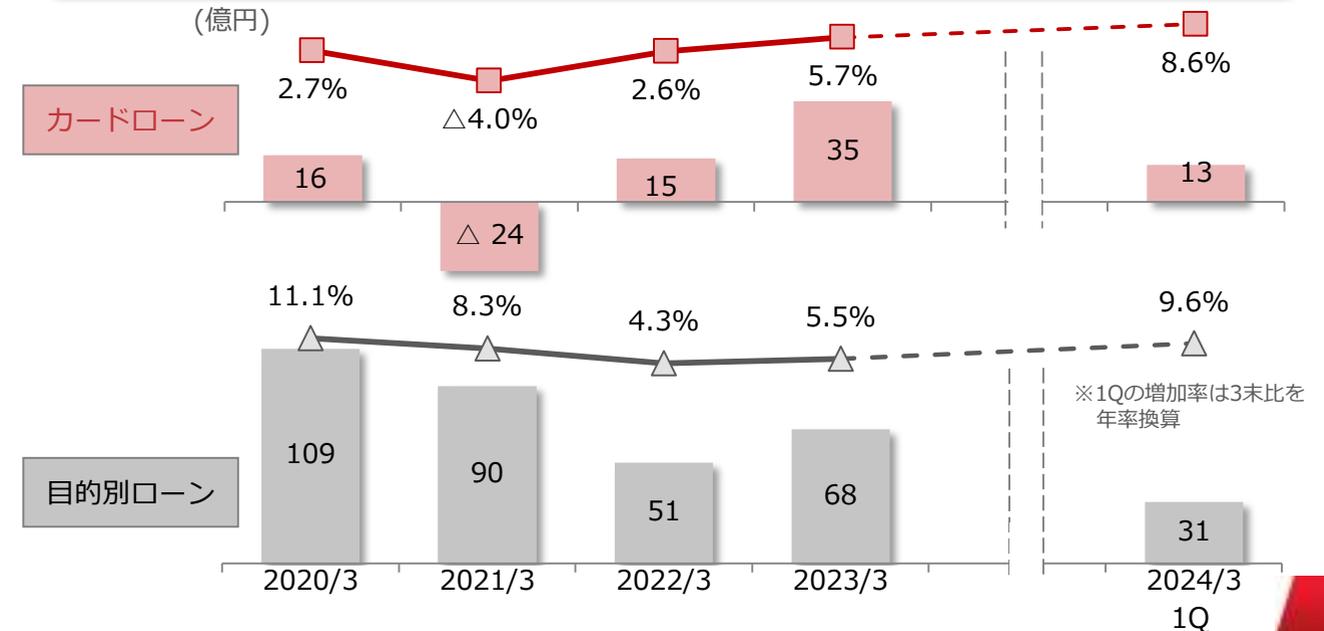
ローン 1日当たり資金利益



無担保ローン利息の増減要因（前年同期比）



無担保ローン残高増加額・増加率 推移



円長期金利上昇に伴う貸出の資金利益改善は、10bpあたり8億円 (2026/3期)

(参考:5月決算説明会プレゼン) YCC・マイナス金利が解除された場合のシミュレーション

想定シナリオ

- 2023年1Q (4月～6月)
 - ・ YCCの見直し
 - ▶ 長期金利上昇：効果①②
- 2023年2Q (7月～9月)
 - ・ YCC撤廃
 - ▶ 長期金利上昇：効果①②
 - ・ マイナス金利解除
 - ▶ 短期金利・預金金利上昇：効果③④

内訳	効果額 (億円)
効果①：長期金利上昇による貸出金利息増加	+50
効果②：長期金利上昇による円債利息増加	+18
効果③：短期金利上昇による貸出金利息増加	+21
効果④：金利上昇による預金利息増加	▲13
合計 (税引前)	75

増益効果 (税引後) **+50億円** (2026/3期 見込額)

3年後のROE押上げ効果 **+0.5%**

(New) 今般・今後の金利上昇による増収効果シミュレーション

① 7月の日銀金融政策変更に伴う貸出金収益への影響額

	24/3期	26/3期
長期金利上昇による貸出金利息増加 (左記 効果①)	+1億円	+10億円 (ROE +0.07%)

前提条件

- 日銀金融政策発表翌営業日(7/31)の市場レートに基づき算出 (10年国債利回り：**0.60%**)

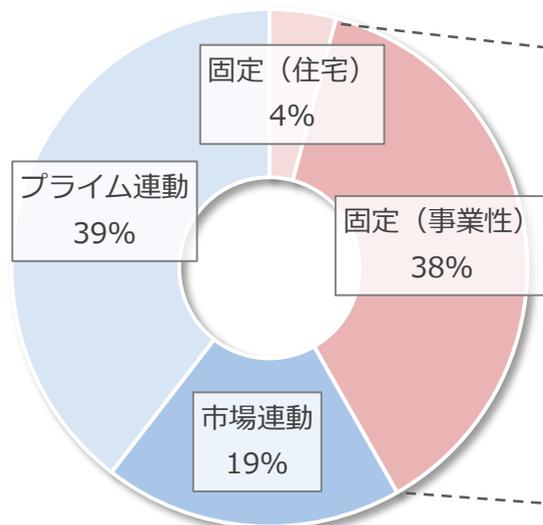
② 長期金利がさらに10bp上昇した場合の追加増収額

	24/3期	26/3期
長期金利上昇による貸出金利息増加 (左記 効果①)	(追加) +1億円	(追加) +8億円 (ROE+0.05%)

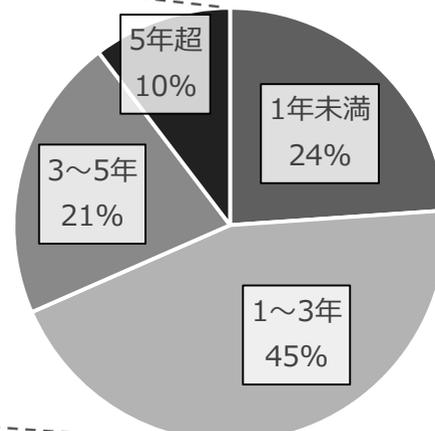
前提条件

- 過去のイールドカーブ変動実績に基づき、年限毎に上昇幅を調整 (10年+10bp、5年+6bp、3年+4bp)
- 金利上昇に対する追従率を60%と想定

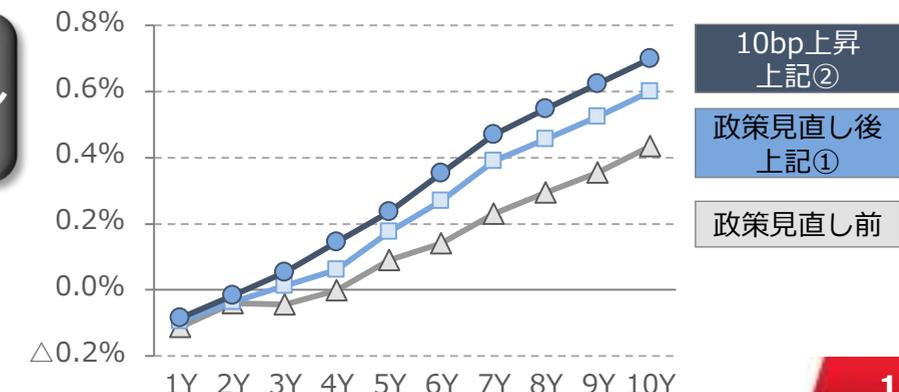
貸出金の金利別内訳



固定(事業性)の残存期間内訳



上記シミュレーションの前提金利水準



本資料に関するご意見、ご感想、お問い合わせは
下記 I R 担当までお願いいたします。

株式会社 千葉銀行経営企画部（I R 担当）

Tel : 043-301-8459

Fax: 043-242-9121

E-Mail: ir@chibabank.co.jp

本資料は、情報の提供のみを目的として作成されたものであり、特定の証券の売買を勧誘するものではありません。

本資料に記載された事項の全部又は一部は予告なく修正又は変更されることがあります。本資料には、将来の業績にかかる記述が含まれています。こうした記述は、将来の業績を保証するものではなく、リスクや不確実性を内包するものです。将来の業績は、経営環境の変化等により異なる可能性があることにご留意ください。